



けやき会通信



けやき会会長挨拶

けやき会 児玉豊

榊会就任してあっという間に2年が過ぎ無我夢中で理事・医療側理事・顧問・諸先輩のご好意と援助やアドバイスをいただきながら、相務めて参りました。

未熟な私が、温かい見守りと叱咤激励を受けながら、どうにか続けてこられたのは、ひとえに榊会の皆様のおかげです。ここに書面を借りて厚く御礼申し上げます。

この2年間で榊会・東京都糖尿病協会の「歩く会」や講演会に積極的に参加する機会も増え、皆様のご援助で「さかえ」を無事に発送出来ました。

前会長の矢野様から、榊会の副会長に推薦され、お手伝いを始め、会計や、諸般の雑用、東糖協の「歩く会」に参加し、更に榊会の40周年記念行事にも参画出来ました。

その過程で、榊会の歴史やその初心が忘れられているような気がしました。

例えば、3年前に修理した二階廊下角の柱時計は榊会が33年前に寄贈したものです。榊会の意志を受け継ぎ、今後も無事に時を刻んでほしいと思います。その当時ご活躍した面々が、今高齢で糖尿病教室に参加できないのは、非常に寂しい限りです。

又、会員有志からお写真をお借りし纏めました。残念ながら既に写真詳細に不明点が多く、皆様のご協力を得て少しでも情報収集していきたいと思っております。

けやき会の会員減少も非常に気になる処でその為、関東中央病院の月刊誌（みどりの広場）の関中ニュース欄に糖尿病教室開催とけやき会例会案内、東糖協「歩く会」等をご紹介します、榊会の会員増強を図っています。

又、40周年記念行事の折、40年の歩みを記した雑誌「けやき」も頒布用に増刷しました。

更に昨年度久しく途絶えていた「榊会研修バス旅行」を皆様のご協力を得て復活しました。

その他、色々な手法が有ると思いますが、是非、皆さん方にお知恵を拝借したいものです。

糖尿病は、諸般の病の根源にあることは、頭で判っています。でも独りでこの病と闘うのは、非常に困難です。

その一方で新薬・食事療法・運動療法・医療機器は、日進月歩です。個人で情報を集めるのは本当に難しく、糖尿病の対処は、医療側と患者側皆で考え進めることが良いと思います。

近年、厚生労働省は自宅療養と地域包括支援センターの活用を謳っており、各人にとって一番良い糖尿病の付き合い方をメディカル・コメディカル・榊会会員と共に探って参りたいと思っています。

I型糖尿病の方もこのけやき会に所属しており、II型糖尿病以上に困難に直面しています。

最新の機械もその医療費は、薬剤に比べて非常に高価です。

又、インスリン注射も高齢になると目盛りが読めなくなるという困難に直面しています。

どうぞご意思のある方は、是非、理事に立候補しご協力戴きたく、宜しくお願い申し上げます。

